

# NPO法人 子どもセンター「パオ」 Newsletter

vol.20

「ぴあ・かもみーる」日記③ ●

広がれ！広がれ！全国の子どもシェルター ●

パオ7周年記念イベントのお知らせ ●



パオの  
現いま

## 「ぴあ・かもみーる」日記③

私が遅れてきた新人？としてぴあ・かもみーるに勤務して10カ月が過ぎました。振り返るとまさに、まるで胎内で育まれた命が月満ちて一人の人として生まれ出る、その経過に似た体験だったように思います。

私がここで最初に出会った入所者のAさんとBさんはそれぞれに次の居場所への旅立ちをし、新たに出会ったCさんとDさんも、自分で決めた新しい居場所へと相前後して旅立ちました。

そして今、EさんとFさんとの生活が昨年から続いています。ニュースレターが届く頃には新たにGさんが加わる予定です。

ぴあ・かもみーるでの生活の一端をお話します。

Eさんは、ここの生活を拠点として落ち着くと、進学・就職とアクティブに自己決定して進んでいきました。一見きゃしゃなように見える彼女ですが、芯は強く前向きです。お菓子作りにもこだわります。ヘルシー志向で砂糖を減らし、牛乳の代わりに豆乳を使うなど、創作意欲満点です。その味はなかなかのものです。Eさんは、何よりコミュニケーション能力が高く、お話するととても楽しいです。ボランティアさんとファッションのことから始まって多方面の話で盛り上がり、お茶を飲むのも忘れて笑顔で楽しんでいた日のことが強く印象に残っています。

Fさんと生活を共にするようになってから驚いたのは、調理に手馴れていたことです。キッチンでの動きに無駄がなく、味付けもちゃんと自分の味を持っています。一人暮らしをしていくうえで‘大丈夫！’の太鼓判が押せそうです。

お菓子作りや手芸もミッションとして実施しました。ミッションとは、自分で自分に課した「お題」です。お菓子作りでは連日レシピ本をめくることが楽しみとなり、次々と本の中のお菓子がテーブルの上に実際に置かれ、食べることに躊躇するほどの出来栄でした。手芸では、シュシュ、長財布など手の

込んだ作品にもチャレンジしています。最近では進学や就職も自己決定し、新しい生活のスタートです。

どのお子さんも寄り添って下さるパートナー弁護士さんとのこまめなコミュニケーションがあります。

パートナー弁護士は、失敗は失敗として受け入れ、「今は失敗してもいいのだよ」というメッセージを送り続けます。その根気の良さにただただ敬服です。

私は愛知県の生んだ童話作家、新美南吉の『でんでんむしのかなしみ』という作品がいつも心にあります。ある日でんでんむしが「わたしのせなかのからのなかにはかなしみがいっぱいまっているのではないか」と気付くのです。お友だち皆に聞いて回り、ついに「かなしみはだれでももっているのだ」、「わたしはわたしのかなしみをこらえていかなきゃならない」となげくのをやめたのです。人と比較することにとらわれず自分は自分と自己肯定し生きていくことは困難なことです。喜びの体験と同じくらい失敗もあるでしょう。これからも彼女たちを見守り続けていきたいと思います。 (スタッフ・S)

### ステップハウスで暮らすA子さんの一週

